

## ◆今期間のポイント

## &lt;主要しょう乱の概要&gt;

- 7日は、低気圧が日本の東を東進し、高気圧が東シナ海から西日本に移動する。
- 8日から9日は、低気圧が日本の東から千島の東に進み、高気圧が日本の南から日本の東に移動する。
- 10日から11日は、気圧の谷が日本付近を東進する。

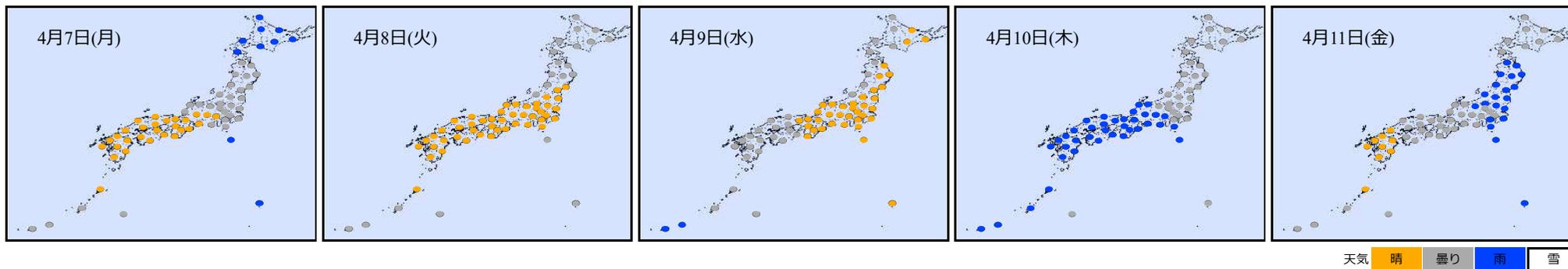
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

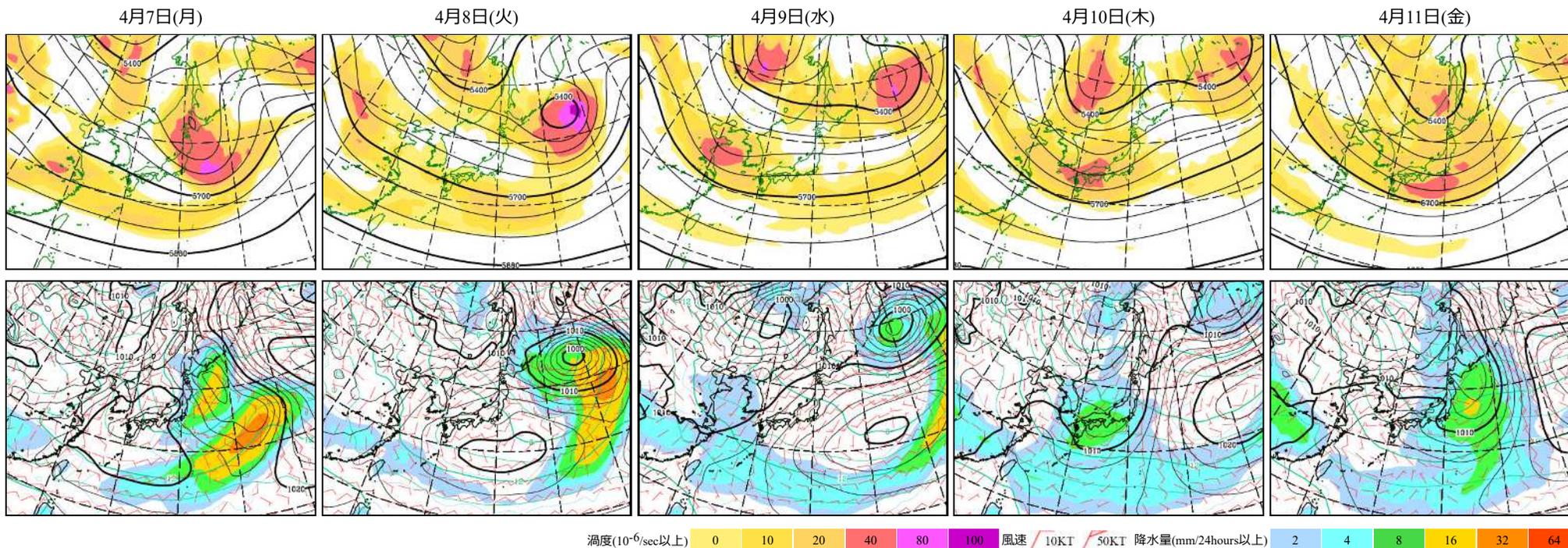
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

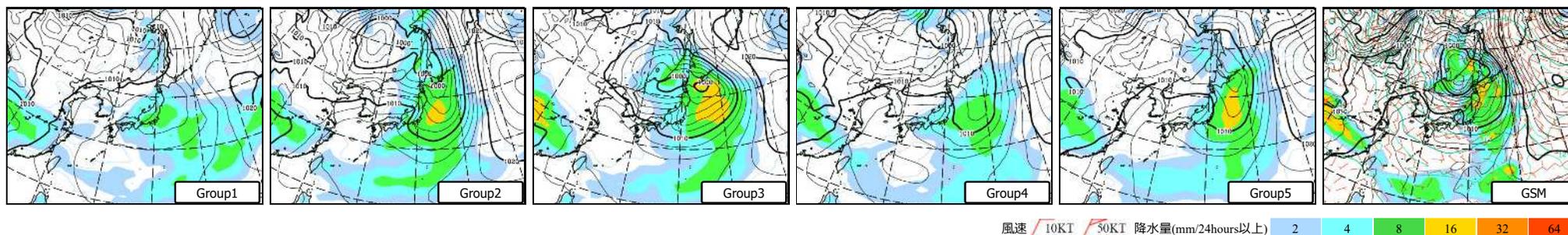


- 北日本は、曇りや雨または雪の降る日が多いが、9日は晴れる所が多い。
- 東日本は、7日から9日にかけて晴れや曇りとなるが、10日から11日は雨の降る所がある。
- 西日本は、晴れや曇りの日が多いが、10日は雨の降る所が多い。
- 沖縄・奄美は、7日から8日と11日は曇りや晴れとなるが、9日から10日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆4月11日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、期間後半に西から接近する500hPa5400mのトラフと5580mのトラフが深まった。また、5580mのトラフの接近がやや遅くなった。トラフの深まりに対応し、期間の終わりに北日本付近に進む気圧の谷が明瞭となった。
- 期間終わりの500hPa5400mのトラフの動向については、各モデル初期値変わりが見られ、モデル間のバラつきが大きくなっている。10日から11日頃にかけて、日本付近は気圧の谷となって天気が崩れる予想は各モデル共通しているが、地上の低気圧の予想についてはモデル間の相違があり不確実性が大きい。メンバー間のバラつきも大きく、NCEPのように本州南岸付近を低気圧が発達しながら進む予想もメンバーの1~2割程度は存在する。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。